

1 学校として目指す授業

ファシリテーションについて学び、様々な機会を通じて、生徒が自分で課題を見付け、学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する過程を重視した授業

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（中学校 3 年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語、数学ともに全領域で全国平均を上回っている。 ・国語では、平均正答数の中央値と全国の前四分位の値が同じである。 数学では平均正答数の中央値が全国の前四分位と同じ値であり、第 1 四分位と全国平均の中央値が同じ値であることから、学年全体の平均値の高さが伺える。 ・国語では話し合いの説明についての正答率が低く、情報の関係性の理解が不足していることが伺える。	・全国平均と比べて放課後や週末に家庭学習や塾に通う生徒が多い。 ・2年次の授業では自分の考えを発表する際に資料や文章の準備と工夫をあまりしていない生徒が多く、ICT機器を使っの意見の共有や比較がしやすいと考えている生徒は少ない。

(2) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・五中生活向上アンケート 道徳の授業では自分の考えをもつことと同時に、他者の意見にも耳を傾けて授業に積極的に参加している生徒が 9 割を超えている。さらに、ICT機器を使用し、調べる力や考える力、話し合う力が向上したと感じられる生徒が 7 割以上いる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

・学習の習慣は身に付いており、知識的な習得もできているが、自ら課題を見付けて取り組み、解決していく能力に課題がある。 ・自らの学習方法に工夫をしながら粘り強く取り組み、継続して学習していくことが課題である。 ・思考・判断・表現の観点などを基に身に付けた知識を活用して、自らの考えを発展させ、表現することが課題である。
--

4 学校全体の授業改善の視点

習得した知識を活用して自分の考えを表現したり、課題を解決したりする方法を考える場面を設けることが必要である。生徒から多様な考えが出るような発問を行い、他者の意見を理解しながら新たな理解が得られる機会を与える必要がある。ICT機器を活用するなどして、生徒が自分自身で目標を設定して取り組めるような課題を設定するなど個別最適な学びに向けて取り組んでいく。対話や協働学習を工夫し、主体的・対話的で深い学びを実現する指導方法を各教科で一層推進し、教科横断的な指導を取り入れていくことが大切である。
--

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学年	・授業内での視覚化を図り、今どのような活動をしているのか分かるようにしている。		・自ら学習計画を立てさせる。また、ICT機器を活用し、思考ツール等を用いた共働的な学習の場面を設定する。		・基礎的な学習内容の定着を図るため、授業内で反復練習をする時間を設ける。また、互いに教え合う時間も確保する。		・科学的な思考力を養うためにレポートや授業プリントの中で、自分の考えをまとめたのち、意見交換を行い考えを共有、深めていく時間を設定する。		・基礎的な内容の充実を図り、反復学習を行う。目標を明示し、振り返りを行うことで自己達成感を感じさせる工夫をする。		・参考作品やICT機器の活用をして、基本的な技法や道具の使い方について解説して身に付けられるように工夫する。		・ICT機器を使用し、自分の映像を撮影し、見本映像と見比べて自分の運動を分析する機会を増やす。 ・最新機器(ウェアラブルセンサー)を使用した授業展開の研究、検証。		ICT機器等を利用し、生徒自らの問題に応じた個別最適な計画・製作が行えるように工夫を行う。		言語活動等において目的・場面・状況を意識させて主体的に取り組ませる。また生徒が自ら目標を設定し、ICT機器等を活用し自分に合った学習方法を選択できるようにする。		毎時間の指導内容とねらいを確認する。また、他者と対話をする機会をつくり、新たな価値観に気付かせる工夫を行う。	
2 学年	・単元目標について説明をして、その目標を達成するための言語活動を行い、教員は発言を促す役割に徹する。		・ICT機器を活用し、学習内容をまとめたり、単元の課題に対する考えを他者と共有し発表できるような場面を工夫する。		・基礎的な学習や発展的な学習のそれぞれにおいて、互いに教え合う時間を設定し、考えを共有できるようにする。		・1 学年での既習事項を整理し、新しい知識と結びつけていく。その中で話し合い活動を行い、気付きを他者と共有していく。		・1年生で学んだ基礎的な内容をふまえ、自らの意図をもって表現の工夫をできるような授業展開を工夫する。		・各単元ごとに目標を明確にして振り返りを行うことで、見通しを持って計画的に作品を制作できるように工夫する。		・ICT機器を使用し、自分の映像を撮影し、見本映像と見比べて自分の運動を分析する機会を増やす。 ・保健分野においてTeams会議の画面共有を使用し、個別最適化かつ協同的な学びとする。		食育を推進するために、主体的・対話的な学びを意識したワークシートの工夫や場面を設定する。		生徒が主体的に取り組むための「目的・場面・状況」を設定した単元目標の設定と、それに向けた緻密なスモールステップの設定をし、何に向かって今という段階を進めているのかをメタ認知しながら学習を進めていけるようにする。		生徒自身が問題意識をもてるよう導入など身近な話題から入るようにしている。また、他者との対話により、異なる意見を聞く場面を設定している。	
3 学年	・論理的に考える力や感じたり想像したりする力を養うために、自分の考えを伝えあう時間を多く設ける。		・多面的・多角的にとらえる視点を身に付けさせるために、他者に自分の考えを伝え合う場面を設定する。		・各単元の導入やまとめの授業において、互いに教え合う時間を設定し、対話を通して課題を解決できるようにする。		・各単元において、まとめの段階で自分の言葉で考えを整理するとともに、話し合いを行い考えを深める。		・ICT機器の活用をし、自らの思いや意図をもって表現活動ができるような工夫をする。創作活動の充実をはかる。		・素材の特性に合った技法や表現方法を工夫するために、作品を鑑賞し合うことで発想を高められるようにする。		・ICT機器を使用し、自分の映像を撮影し、見本映像と見比べて自分の運動を分析する機会を増やす。 ・保健分野においてTeams会議の画面共有を使用し、個別最適化かつ協同的な学びとする。		ICT機器を活用し、生徒自らの知識を主体的に獲得し、生活や社会の中で活用する力を身に付けさせる。		生徒自らが目標を設定し、自分に合った学習方法を選択できるようにする。ICT機器等を活用し、互いの意見や学習成果を共有できる機会を設定する。		生徒自身が問題意識を持ち、対話によって自分と異なる意見と向かい合う場面を設ける。また、動画等も活用し道徳的価値の理解を深める工夫をする。	